

2021年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493100455	事業の開始年月日	平成30年6月1日
		指定年月日	平成30年6月1日
法人名	ヒューマンライフケア		
事業所名	ヒューマンライフケア下永谷グループホーム		
所在地	( 233-0016 ) 神奈川県横浜市港南区下永谷2-34-14		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和3年7月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年11月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域との交流には力を入れております。去年は、コロナの影響もあり、イベントを行う回数は減らしてはりましたが、8月には自治体の子供太鼓クラブの方々を招き外の駐車場にて子供太鼓演奏会を行いました。利用者様のご家族様もお呼びしてコロナ対策のもと成功することが出来ました。去年は中止としましたが、夏祭りも施設のイベントとして行っております。一昨年夏祭りでは、事前にチラシを配り掲示板に掲載することで沢山の方々が集まって頂きました。ヨーヨーすくいや射的、宝引き等焼きそばやフランクフルトを提供しながら地域との交流を図りました。あと、毎週金曜日にはセブンイレブン様と提携して外の駐車場にて移動販売を行っております。利用者様はもちろん、近所の高齢者の方が坂を下りてなかなかお買い物に行けない方なども利用されており、この取り組みにも地域との交流が盛んに行われております。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年10月13日	評価機関 評価決定日	令和3年11月9日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、横浜市営地下鉄「上永谷」駅から神奈中バス「中永谷」バス停より「平戸永谷川」を渡り徒歩5分ほどの高台の閑静な住宅街にあります。近くに散歩コースとして緑多い公園・神社があります。敷地内には小規模多機能型居宅介護事業所「下永谷の宿」を併設し、行事の連携・交流をしています。

<優れている点>

本年度、職員の話し合いを基に理念を見直し「笑顔であいさつ」[チームワークの良さは日本一]と決めています。仲良くという意味を込めて「チームワーク」とし、職員の信頼関係も培っています。地域との交流に力を入れ、コロナ禍でも毎週の移動販売を継続実施しています。入居者はお菓子・パンを買い、地域の高齢者も利用しています。研修は「身体拘束廃止委員会」4回、「虐待検討会議」2回、リモートによる法人の「認知症に関する研修」、「感染症」2回を年間に位置づけ、職員の知識を深め、日々の介護支援の向上を目指しています。

<工夫点>

コロナ禍で法人の「緊急宣言時のガイドライン1から5段階」の指示を基に、入居者の思いや要望に応じ気分転換に繋がる行事やイベントを実施しています。毎週の移動販売車、家族面会、近くの公園・神社の散歩、施設の夏祭りでの飾りや音楽、焼きそば・フランクフルト・かき氷の提供し楽しい機会を作っています。入居者、職員が化粧して仮装するハロウィーンの準備も進めています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア下永谷グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月の事業所会議にて、各スタッフがしっかりと理念に沿ったケアに当たっているか共有をしております。	本年度、職員の意見や話し合いを重ね理念を見直し、「笑顔であいさつ」「チームワークの良さは日本一」と決めています。「チームワーク」には職員が仲良くという意味を込め、笑顔で接し、入居者の日々の生活に笑顔が表れることを目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的なイベントの実施と毎週金曜日のセブンイレブン様による移動販売での交流を行っております。	地域との交流に力を入れています。「コロナ禍でも移動販売はなくしてはいけない。」という職員の話し合いから毎週金曜日の移動販売を継続しています。住宅地は高台で地域の多くの高齢者も移動販売を利用し買い物ができ助かるとの声が届いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、コロナの影響によりなかなか運営推進会議や地域とのイベント企画が出来ずに、理解して頂く機会が減っております。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、コロナ過により運営推進会議は書にての報告になっております。なので、話し合いの機会が減っている現状です。	コロナ禍の前は併設の施設と合同の会議を開催し地域包括センター職員、家族、地域住民、職員が参加しています。現在は、家族へ「家族通信」を郵送し、他の会員メンバーには電話で取り組んだ行事・イベントや入居者の様子をお知らせをしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議にて報告を行っていましたが、コロナの影響により積極的な連絡は減っております。	市よりファックスなどで情報を得ています。区役所福祉支援課への連絡は、入居者の様子、要介護度の申請、避難訓練の報告をしています。避難訓練は港南区の消防署と連絡し対応をお願いしています。地域包括支援センターで施設入居の紹介もしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関して、3か月に1度委員会を開催しております。その中で、拘束に対する理解や身体拘束をしないケアに努めております。	「身体拘束廃止委員会」を年4回、「虐待検討委員会」を年2回設定し事例を基に研修をしています。「ちょっと待ってね。」「これはダメだよ。」などの誰にでも起こり得る可能性があることを日々意識し、何気ない言葉遣いにも気をつけるように努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間計画に沿って、必ず虐待に対する研修を定期的で開催して虐待への理解を深めております。	職員は「拘束・虐待チェックシート」により年2回自己チェックを行ない日頃の対応の仕方を振り返っています。日常の気になる不適切な言動については、毎月の事業者会議で話し合い、時には直接指導をして職員の意識向上と防止の周知を図っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設独自に計画作成担当者による研修を毎月開催しており、権利擁護や社会保険等さまざまな知識を深めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重説等に関しては、十分に説明を行い、家族様には十分に納得した上での押印をお願いしております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月の請求書の中に家族通信を同封することによって家族との意見交換を行っております。	家族の要望から玄関、駐車場での面会を実施しています。「家庭通信」で居室担当が「今月のご様子、お身体のご様子」を伝えイベントの写真も添えて郵送しています。家族からの返信もあり、食事、外出、体重、水分摂取についての問い合わせは電話で伝えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の事業所会議やカンファレンスを通してスタッフからの意見を積極的に聞いて反映しております。	職員間の信頼関係もあり各職員の個性、これまでの経験を尊重し合っています。職員の提案は、事業所会議やカンファレンスで相談の上、取り入れています。職員意見より入居者の臥床の時間を変更し、床ずれやむくみが取れて改善に向かった事例もあります。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的な面談を通じてスタッフとの意見交換、働きやすい環境を提供できるような整備に努めております。	勤務時に体温、血圧を計り施設長は、職員の顔色や様子を見守り、必要に応じて対応しています。年度末には「コミュニケーションシート」を使い面談し資格取得の要望や今後の意向を聞き、意欲向上を図っています。派遣社員から数名、職員になった例もあります。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナの影響により外での研修は中止しております。内部では、毎月拠点独自の研修を行い、日々スキルアップを図っております。	「年間計画書」に各研修を位置付けています。職員から「こんなことが分からない」と意見が出ると研修を計画して実施しています。新人研修では、職員リーダーが付き添い指導し、1日の介護支援の流れを学び、慣れてから介護支援に当たるようにしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在、外部との接触は基本的にはしておりません。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日々、計画作成担当や現場スタッフと意見交換を行い、ご利用者様の要望に出来るだけ応えられるよう関係づくりに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	毎月の家族通信を通してこちらからご利用者様の状況をお伝えして、ご家族様からの要望にも出来るだけお応えさせて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成担当者と一緒にご利用者様が必要としているニーズにいち早く応えられるように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	声かけの仕方からご利用者様の過ごしやすい環境にするために努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナの影響により面会の回数も減り、なかなか家族との連絡が難しい現状ではありますが、家族通信や電話等の方法により利用者様の変化を随時報告するように努めております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の友達や暮らしていた場所等電話や外出を通りて支援に努めておりますが、コロナ禍により外出はご遠慮いただいております。	毎週の移動販売では地域の方から「お久しぶり」「また、会えたね。」と声がかかり挨拶を交わしています。友人から「お元気ですか。」の問い合わせの電話もあります。家族面会も玄関の窓側や駐車場で会い、馴染みの人とのつながりを継続できるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人の性格や関係性を理解して、カンファレンス等を通してご利用者様が安心して過ごしていただけるような場を提供しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了していても、ボランティア活動を行って頂いたり関係は継続しております。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	計画作成担当者と一緒にご利用者様が必要としているニーズにいち早く応えられるように努めております。	施設の方針の「目配り、気配り、心配り、小さな変化も見落としません」を目指し、入居者の顔色、表情、しぐさを見ながらその人の思いに寄り添っています。時間を持て余していそうな入居者を見かけたら声をかけ寄り添い、孤立しないように配慮をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	カンファレンスや会議等にてご利用者様のニーズに対して把握できるように意見交換を行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各スタッフとの意見交換により、現状のご利用者様の状態把握に努めております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者と管理者を中心にご利用者様のニーズに各スタッフやご家族様の意見もお聞きしながら計画作成を行っております	介護計画のモニタリングは短期目標は3ヶ月ごと、長期目標は半年ごとに行っています。入居者には日頃から積極的に声をかけ、希望や思いを聞き取っています。職員とは月1回のケアカンファレンスで意見交換し、介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様の少しの変化にも記録やノートに記入して職員間で情報の共有を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	帰宅願望がある方には、外出レクやご家族様とお出かけをしたり、いつもと違う食事がしたいとの要望には食材を買って利用者様を巻き込んで料理レクを行ったりと柔軟に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近くの公園や神社等を散歩コースに設定して、季節を感じながら楽しく暮らしていただけるよう支援しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	提携医療機関と連携して24時間対応を行える体制を整えており、訪問看護や往診等を通して日々心身の状態把握に努めております。	内科は本人・家族の同意のもと、提携医療機関へ主治医を変更します。受診結果は「居宅療養管理指導書」等の写しにより家族に報告します。他の受診科は希望のかかりつけ医への通院を継続していますが、付き添いは、原則として家族対応としています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の小さな変化にも職員間で情報を共有して、提携する医療機関に指示を仰いでおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のワーカー様や看護師の方と日々密に連絡を取りながらご利用者様の情報把握に努めております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	提携する医療機関とも密に連携してご家族様の要望に出来るだけ沿いながら事業所で出来る範囲の支援に努めております	入居時に「重度化対応及び看取りケアに関する指針」に基づき、支援の方針を説明し、家族から「意思確認書」により同意を得ています。重度化や看取りケアをテーマとした研修の実施は今後の課題としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	会議や研修等の場で色々なケースの検討会を行い、スタッフの行動や適切な対応を学んでおります。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練や会議等の場で、避難経路や方法を身につけて施設駐車場での訓練も行っております。	避難訓練は年2回、火災想定で実施しています。事後の振り返りは事業所会議での報告や申し送りノートにより行い、不参加の職員も情報共有しています。夜間の発災時には近隣在住の職員が出勤する体制があります。	地震想定での避難訓練の実施、発生時の初動対応のフローチャートを整備し 運営推進会議の活用による地域との協力体制の構築も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	同性介助やお声掛けに対しては研修や日々の様子を踏まえてプライバシーに注意して対応しております。	お客様としての接遇に努め、呼称は「さん」づけが原則です。スピーチロックや友達言葉など、何気ない言葉が虐待につながることを事業所会議で話し合っています。各自「虐待及び拘束等自己点検シート」を記載し、年2回法人に提出しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意思を尊重し、出来るだけ本人が自己決定できるような環境づくりに努めております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースに合わせた支援を心がけております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみを清潔に保つことをもちろん。入浴時には、本人様のご希望に沿った身だしなみ出来るような対応に努めております。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者様のご希望に出来るだけ沿えるように食事の準備から工夫しております。	コロナ禍でも食事を楽しむ取り組みを行い、毎月のお楽しみ食事会では、3種類から希望のメニューを選び、多数決で決めています。移動販売車でお菓子やパンなどを購入したり、焼きそばやフランクフルトを職員が作って提供し、夏祭り気分も味わっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量には特に夏場には、気を付け栄養や状態に気を付けて提携する医療機関と連携しながら支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアはもちろん。スポンジブラシも使用しながら清潔に出来るように努めております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時での排泄の声掛けを行い、排泄パターンや習慣を把握して、なるべく自立により排泄ができるように支援を行っております。	個々の介護度や排泄パターンにより、一人ひとりに応じた多様な方法で支援を行っています。羞恥心に配慮し介助の手順や方法を工夫しています。ケアの内容や本人の希望を踏まえ、同性介助による支援も行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方へになるべく下剤や薬に頼らずに水分の促しや運動、毎朝の乳製品への飲水等により解消しております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	午前中で何人の入浴と決めずに、一週間の中で、ご利用者様が入りたい時間に都合をつけて入浴できる支援に努めております。	週2～3日の入浴を目安とし、入浴日や時間帯については入居者の意向を踏まえ予定の変更を柔軟に行っています。同性介助、湯の温度や長風呂の希望など入居者一人ひとりの希望を理解し、入浴を楽しめるように支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日々のスタッフとの意見交換やご利用者様の希望に合わせていつでも休んでいただけの環境づくりを目指しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	会議やカンファレンスにてご利用者様の服薬状況について話し合い、提携する医療機関とも連携して最善の薬を服用出来るように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様の生活歴をご家族や本人様からお聞きして、その方にあった家事支援や役割を生かして支援に繋げております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍により、外出は中止しておりますが、毎日外気浴を行うために近くの神社や公園に散歩に出向き、他者との交流にもつながっております。	コロナ禍で外出は中止し、事業所のベンチでの外気浴や、毎週金曜日に駐車場に来る移動販売車で買い物を楽しんでいます。緊急事態宣言解除を受け、近隣の公園や神社への散歩を再開しています。車で紅葉や梅を観に行きたいとの希望も出ています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には施設管理ですが、ご家族の意向やご利用者様の希望に対しては、他のご利用者様とのトラブルを回避できるように支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者様の希望とご家族様の意向が合えば、施設側は拒否なく支援しております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア内は、季節感を大事にして、明るい環境づくりを目指しております。ご利用者様の希望に出来るだけ沿う形で、不快になるような刺激物には注意喚起を行い、各スタッフに周知させております。	リビングはキッチンで食事をつくる音や香りが身近に感じられ生活感のある空間となっています。玄関先にはハロウィンの飾りが季節の彩りを添え、間もなくハロウィンの仮装の催しも予定しています。写真を撮って廊下に飾り、家族にも喜んでもらいたい、と準備も進めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	孤立空間を生まないために、各スタッフが、席の位置やレクや散歩等の声掛けを促しなるべく孤立しない工夫に努めております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内に関しては、ご家族様の意向とご利用者様の希望に出来るだけ沿えるように支援をしており、過ごしやすい環境に出来るように工夫も行っております。	入居者は居室に興味の物や家族写真、TV、ラジカセなど馴染みの物を置き、居心地のよい空間にしています。居室では編み物や昼寝、新聞を読むなど思い思いに過ごしています。居室は日曜日の日中に清掃し、遅番職員が消毒をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	家事支援や役割を各スタッフが理解してその方の状態に合わせて自立した生活が出来る環境づくりに努めております。		

事業所名	ヒューマンライフケア下永谷グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月の事業所会議にて理念を各スタッフ間で共有出来るように話し合いの場を設けて、実践に繋げられるようにしております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響によりなかなか外部との接触は減少していますが、毎週金曜日には地域の方々を施設駐車場にてセブンイレブンの移動販売を利用して交流の機会を作っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	イベントや日々のお散歩等を通して地域の住民との交流を深め、認知症の方々への理解を強めております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍により、現在中止しておりますが、電話や書面にて報告を行い、少しでもサービス向上に活かしております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	電話での連絡と書面での報告にてサービスの協力関係を築くように取り込んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を自拠点では、対象はありませんが、研修を通して事例を元に話し合いを行い、理解を深めております。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	現在、研修を通して、事例を元に各スタッフと話し合いを行い理解を深めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	計画作成担当者と管理者による研修を開催し、各スタッフへ研修を行い、理解を深め日々の業務に活かせるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者と計画作成担当者と共にしっかりと理解できるように説明を行い、納得して頂けるまでお話をさせて頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部評価や日々のアンケート、家族への通信を毎月お渡ししてご家族様との意見交換に繋げて、運営に反映させております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の事業所会議、ミーティングや業務時間時に話し合いを行い、運営に反映させて頂いております。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日々の勤務状況や実績、面談を通じて上長と意見交換を行い、各スタッフが向上心を持って働ける環境整備に努めております。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各スタッフのスキルアップのため、資格取得を進めており、外部での研修はコロナ禍のため、なかなか出来ておりませんが、内部では、毎月独自での研修を実施してトレーニングに努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	事業所会議でのミーティングを通して各スタッフとは交流を行い、同業者との交流には、コロナ禍により減少しておりますが、歯科、作業療法士などの方々からの研修を行い質を向上に努めております。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人様からの要望には出来るだけ計画作成担当者の意見を聞きながら安心安全の環境づくりに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様からの要望にも出来るだけお応えさせて頂きながら関係性を築いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成担当者と一緒にご利用者様の必要とされている支援を優先して応えられるように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	あくまでもお客様、関係性を大事にしてお互いが信用する関係を築くように努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍によりなかなか本人様とご家族様との接点が少なくなりましたが、家族通信やお手紙、お電話等により関係を維持できるような取り組みに努めております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	お友達や馴染みの方の訪問やお電話にも対応しております。本人様の希望に添えるような対応に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	基本的に利用者様を孤立しないような環境づくりや声掛け等に努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族様との関係性が良好であれば、相談フォローに関して、応えて参ります。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の暮らしや生活歴を踏まえて、暮らしやすい環境づくりに努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様やご家族様との連携を強め、ご利用者様が暮らしやすい環境づくりに努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各利用者様の生活パターンを理解して、その方の状態把握に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当を筆頭にご家族様や医療機関との連携を強め、ご利用者様の最善の計画に努めております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の業務から記録に記入する癖を各スタッフに周知させ、ミーティングや事業所会議を通じて計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟なサービスが行えるように出来るだけ、ご利用者様はもちろん。ご家族様からの要望にも応え、支援できる体制でいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	安心安全はもちろんのこと。ご利用者様の状態を把握するため、提携の医療機関や計画作成担当者と連携してご本人様が過ごしやすい環境づくりに努めております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	提携の医療機関との連携から一番はご利用者様とご家族様の要望を一番に考え、適切な関係、適切な医療を受けられるように支援に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の少しの変化や特変にも准看護師や管理者へ報告し、提携する医療機関へ報告するようになっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と自拠点の医療機関との連携はもちろんの事、自拠点が退院後にどのような支援が出来るかを情報交換共有を行っております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアにも研修を通じて勉強をして提携する医療機関の指示のもと行える環境になっております。ご家族様の要望にも出来るだけ応えられるよう努めております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご利用者様の事故やヒヤリにも直ぐに管理者や看護師、提携する医療機関への報告を義務付け各スタッフが独自で動かないように周知しております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練や研修を通じて各スタッフが災害が起きた際の避難経路や対応について意見交換を行い、身につけております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スピーチロック。各スタッフが研修や事例に基づいて声掛けやプライバシーの保護に努めております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本のご利用者様がやりたい事には出来るだけ行っていただき、グループホームの在り方について学び、働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様の過ごしやすい環境、生活リズムを把握して、職員側のペースにならないようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節感やその人の着たい服を尊重し支援しております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	イベントを企画し普段なかなか食べられない食事を提供したりご利用者様からの要望にも応え、スタッフも含め楽しんでいただける空間に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	提携する医療機関や看護師からの助言を元にご利用者様の栄養管理に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアをおこなっております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時での声掛けは行いますが、日々の排泄パターンを理解し、誘導して出来るだけ自立に向けた支援を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品や水分摂取、身体を動かす事で、なるべく下剤に頼らないケアに努めております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員側の都合ではなく、各ご利用者様の要望にも応えられるように曜日や時間帯にも余裕をもって支援に繋げております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとり生活パターンに合わせた入室の声掛けを行い、安心してお休み頂ける環境支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬にも提携する医療機関からの指導のもと、各スタッフが理解してご利用者様の変化に気づけるように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴やご家族様からの情報を元にご利用者様に役割や家事支援を行い、グループホームの在り方に繋げております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍により現在難しい現状ですが、普段では、ドライブや散歩近くのお祭りになど出向き、地域住民との交流の機会を作っております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には金庫保管ですが、利用者様やご家族様のご希望であれば必要に応じて所持を許可しております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎月の家族通信を通じて1か月のご利用者様の状況をお伝えし、時には電話にてご利用者様と交流して頂いております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を大切にして、日々のレクリエーション工作からの飾り物等を工夫して、生活感、華やかな空間を目指して、過ごしやすい環境に努めております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席決めから普段の生活パターンや居場所への工夫に努めております。孤立しない環境づくりに努めております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室でもフロアでもなるべく本人様の好みを導入して、ご家族様にも援助頂きながら過ごしやすい空間を目指しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	事業所会議やミーティングを通して、各ご利用者様の生活パターンを工夫して安全に生活ができるように努めております。		

2021年度

事業所名

作成日： 2021 年 11 月 12日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	Ⅲ	自然災害の特に地震に想定の実施と発生時の初動や対策案が明確でない	水害、火災だけでなく地震など様々な自然災害への対策とフローチャートを整備	定期的な避難訓練を通じた様々な例題に対応していく事や、運営推進会議の活用による地域との協力体制の構築	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月